

## 3月定例記者会見 会見録

令和2年(2020年)3月11日(水) 11:00~11:30 庁議室

### 質疑応答

#### ■新型コロナウイルス感染症対策（学校の対応）について

##### 記者 A

政府の突然の休業要請でつくば市内でも3月6日から公立の小中学校が休業となりました。しかし、つくば市では、希望制で、学校で児童・生徒を預かり、給食を提供するといった対応で、注目されたと思います。実際に休業になってから数日経ちましたが、よかった点や課題点を伺います。また、「つくばこどもクエストオンライン」以外で休業期間中の児童・生徒を支援する取組について伺います。

##### 市長

先日(3/6)、実際に学校の様子を見に行きました。子どもたちは、通常より少ない人数で学校生活を過ごしています。その状況でいくつか感じたことをお伝えします。

1つ目は、子どもたちはこの期間中、自分自身で時間割を決め、課題に取り組んでいます。ある保護者から聞いた話によると、例えば、ドリルをやる場合、自宅の場合は、どうしても他の誘惑もあり1ページを進めるのにも時間がかかってしまうけれども、学校だと、自分で時間割を組んで集中してやっているようなので、短い時間で終わらせることができたとのこと。こういった今回の対応を称賛する多くの声が私に届いています。

2つ目は、現場の学校の先生方は感染拡大対策のために、児童・生徒間の距離に配慮するとともに、手洗いを徹底するよう指導するなど大変努力をしてくれています。こういった先生方の協力の下、市内の学校では感染予防を徹底することで、子どもたちの学びの機会が保たれているという状況です。

3つめは、唯一の栄養源になっている子どもが多くいるであろう給食を提供しているということ

です。この給食の提供により、できるだけ日常生活に影響を与えず市民生活を守るという初期の目的を、現時点ではある程度達成できていると思っています。

このように、先生方も慣れないことで戸惑いがあると思いますが、各学校で工夫をしながら、子どもたちのためにできることを考えて行動していただいています。このような対応に改めて非常にありがたいことだと思っています。

また今回、「つくばこどもクエスチョンオンライン」という学びのツールの提供を初めて試みましたが、我々はあくまでも1つの選択肢を子どもたちに提示しただけであって、この期間中は、このほかにも絵や工作、読書、ドリルをするなど様々な「学び」を行い、今後に生かして欲しいと考えています。現時点ではこのほかに市による新しい取組などは計画していませんが、このようなそれぞれの「学び」を子どもたちが工夫して行ってくればよいと思います。

## **教育長**

私も3/9・10と学校を訪問してきましたが、先生方によると、「つくば市の場合は3月6日からの休業であったため、学期末の学習のまとめや、休業期間の学習の進め方、感染防止のための生活上の注意点をしっかり指導できた上で、休業を迎えることができたので大変よかった」と言っていました。

子どもたちの様子はというと、国語・算数の勉強をする子や、裁縫や図工で作品を作る子もいて、目標を持って学習している子が多いという印象でした。また、先生方の指導の下、どのクラスでも感染拡大の防止のための手洗いや換気を徹底しているのが伺えました。先生方がしっかり対応していただいております。

## **記者 B**

学校でテストが実施できない状況で、どのように生徒・児童の評価をどう成績に反映するのか伺います。さらに、授業を再開するタイミングを決定するための基準や判断材料を伺います。

## **教育長**

成績への反映についてですが、3月5日の時点で、やるべき内容はほぼ修了しているとのこと  
です。テストは未実施の場合もあるかもしれませんが、学期末の成績は1年間を総合的に判断する  
ものなので、成績をつけることが可能です。

授業を再開する基準は、感染の状況や国の動向をしっかりと見ながら、今後決めていくべきものだ  
と思っています。

## ■新型コロナウイルス感染症の拡大による経済支援について

### 記者 B

ホテルなどへの支援として、具体的にどのようなことを検討するのか伺います。

### 市長

市内の経済への影響は非常に大きいと思っています。現在ホテルなどでは通常の2割以下の売上  
とか、宴会等も9割5分以上もキャンセルされているという話も聞きました。その結果、アルバ  
イトを休ませるか派遣社員を頼まないなどの状況が起こっている可能性があります。必然的に仕  
入れの食材等もストップするしかないですし、地域社会・経済に与える影響は大きいと考えてい  
ます。

ホテルなどへの支援はまだ具体的には調整中で申し上げられませんが、悠長なことは言ってい  
られませんので、早急な対応を行い、事業者や就業者の苦しんでいる部分についての対策を取っ  
ていきたいと考えています。

## ■「第2期つくば市子ども・子育て支援プラン」の策定について

### 記者 A

前回との変更点やつくばならではの取組があれば伺います。

### 市長

今回の特徴的な新規施策は、国の「新放課後子ども総合プラン」の内容を盛り込んでいるところ

です。関係部局連携の上、地域の皆さんを巻き込んで、放課後の居場所づくりを推進していきます。また、放課後対策については児童クラブの待機児童も保育所同様に課題となっているので、対応を強化していきます。

### **こども政策課長**

「新放課後子ども総合プラン」は平成 30 年に文部科学省と厚生労働省が連携して作ったプランで、放課後児童クラブなどにより、全ての児童の放課後の居場所を確保するということを目的に定められました。今回、策定した当市のプランは、国のこのプランを盛り込み、市教育局やこども部が一体となり、また地域の力も借りながら進めていきたいと考えています。

加えて、今回のプランは、子育て世代のライフステージを視野に入れた3つの基本目標を設定し、より良い分かりやすい計画としています。

**以上**